

第3次静岡市環境基本計画 パブリックコメントの結果概要について

令和5年2月

環境基本計画パブリックコメントの実施結果

環境基本計画の実施結果

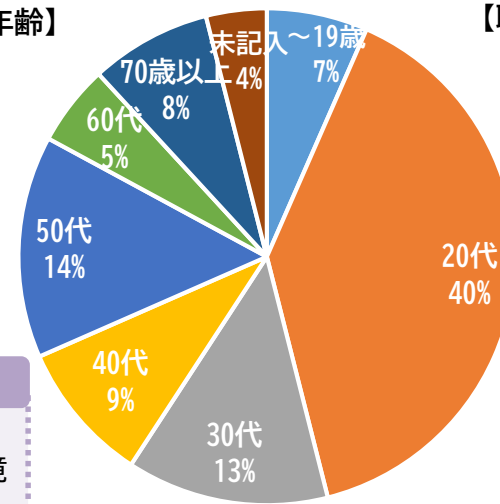
(1)募集期間 令和4年12月6日から
令和5年1月10日まで(36日間)

(2)意見提出件数 **102件(76人)**

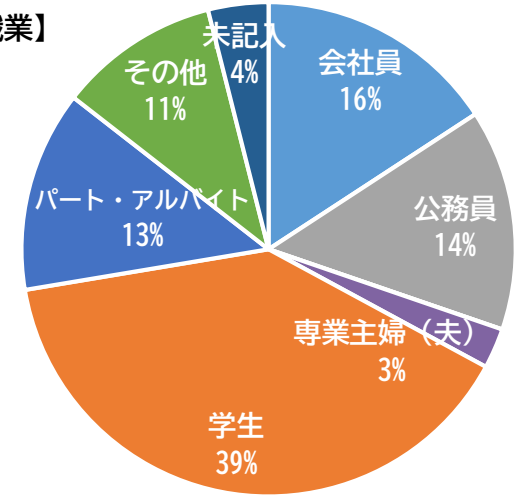
結果に対する考え方

- 【結果】 ● 同時期に行った地球温暖化対策実行計画に対するパブリックコメントは、会社員からの意見が多く寄せられたのに対し、環境基本計画に対しては、20代、学生からの意見提出が多かった。
- 【考察】 ● 業務を通じ温暖化対策の重要性を持った会社員が、地球温暖化対策実行計画に対してのみ意見を寄せたことも理由のひとつ考えられる。

【年齢】



【職業】



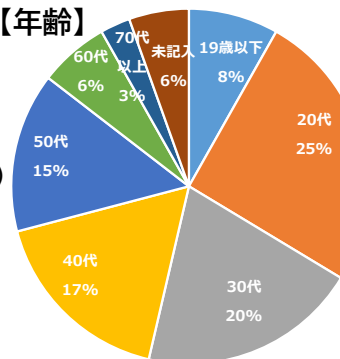
(参考1) 地球温暖化対策 実行計画の実施結果

(1)募集期間 令和4年12月6日から
令和5年1月10日まで(36日間)

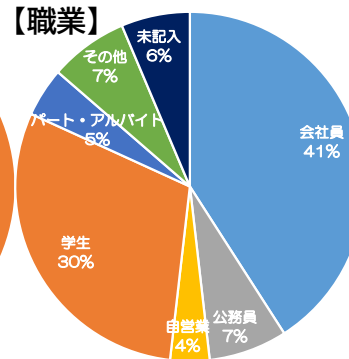
(2)意見提出件数 **156件(110人)**

取組方針1の個別計画

【年齢】



【職業】



(参考2) 一般廃棄物処理 基本計画の実施結果

(1)募集期間 令和4年12月1日から
令和5年1月5日まで(36日間)

(2)意見提出件数 **157件(61人)**

取組方針2の個別計画

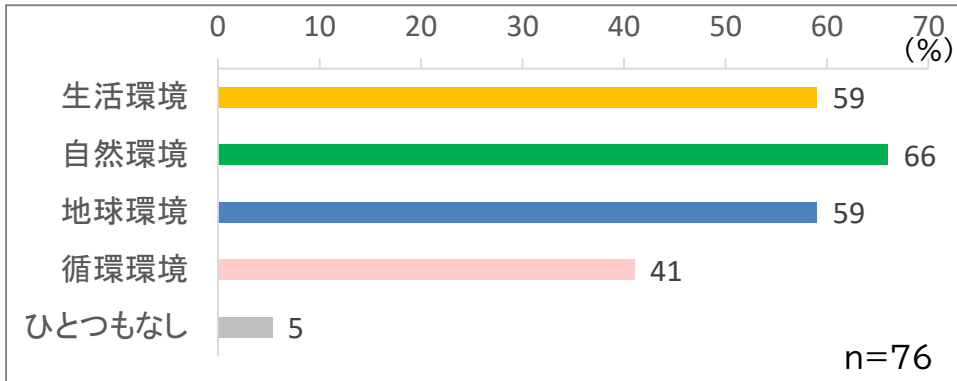
同時開催した3つのパブコメ意見を計画(案)に反映していく

環境基本計画パブリックコメントの実施結果

(3) 回答項目の分析

問1-1 第2次計画で実施してきた主な取組の中から「評価できるもの」を教えてください

【評価できると回答した人の割合】



【年齢別の回答者数と回答割合】

(注釈) 全体の回答割合より10pt以上低いものを青、高いものを赤としている。

	回答者 (人)	回答者数と回答割合				
		生活環境	自然環境	地球環境	循環環境	ひとつもなし
全体	76	45(59%)	50(66%)	45(59%)	31(41%)	4(5%)
19歳以下	5	2(40%)	3(60%)	2(40%)	2(40%)	0(0%)
20代	29	14(48%)	18(62%)	17(59%)	15(52%)	1(1%)
30代	10	4(40%)	6(60%)	8(80%)	3(30%)	0(0%)
40代	7	5(71%)	4(57%)	3(43%)	3(43%)	1(14%)
50代	11	10(91%)	9(82%)	6(55%)	3(27%)	0(0%)
60代	4	4(100%)	3(75%)	3(75%)	2(50%)	0(0%)
70歳以上	6	4(67%)	5(83%)	4(67%)	0(0%)	1(17%)
未記入	3	2(67%)	2(67%)	2(67%)	2(67%)	1(33%)

問1-1 結果に対する考え方

【結果】 ● 生活環境、自然環境、地球環境の3つは、約6割が評価した。
一方で、循環環境は、評価が低かった。

【考察】 ● 循環環境は、第2次計画の進捗指標報告で“達成”がつかなかったため、評価が低くなったものと考えられる。

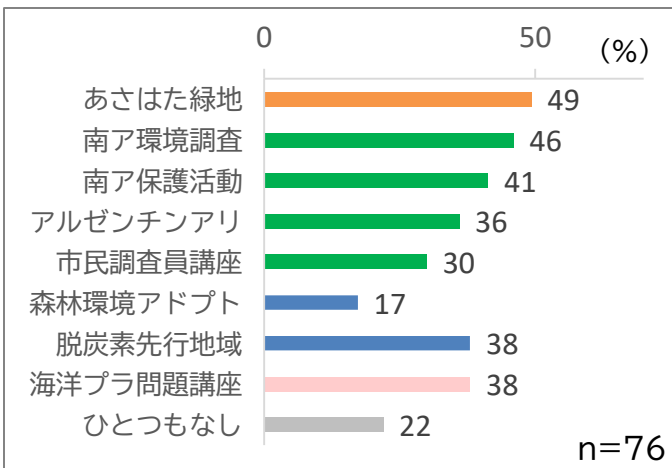
● パブリックコメントの自由意見では、山・川・海の自然環境からの恵みを守ることの重要性を訴える意見が多く寄せられるなど、本市の自然の豊かさを実感しているものが多いことから、今まで講じてきた自然環境施策が評価されたと考えられる。

環境基本計画パブリックコメントの実施結果

(3) 回答項目の分析

問1-2 第2次計画で実施してきた主な取組の中から「知っているもの」を教えてください

【知っている」と回答した人の割合】



問1-2 結果に対する考え方

- 【結果】
- 主な取組の認知度については、30代以上のあさはた緑地の認知度が高かったものの、設問項目全体としては、十分に認知されていないことがわかった。特に、20代以下の認知度が低かった。
 - 20代の回答者の45%が「ひとつもなし」という結果であった。
- 【考察】
- あさはた緑地は、子どものあそび場として、子どもや子育て世帯以上には一定のニーズがあり、認知がされているものと考えられる。一方、高校生や大学生に対しては、ニーズがなかったり、アクセスの問題もあり、認知があまりされていないものと考えられる。
 - 20代の回答者の多くは大学生と考えられるため、静岡市以外の出身者には、静岡市の取組に関する情報に触れる機会が少ないことが、20代の認知度が特に低い理由だと考えられる。

【年齢別の回答者数と回答割合】

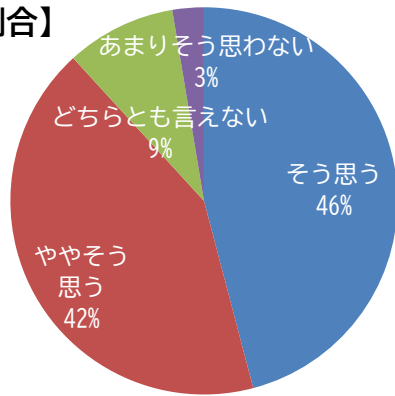
(注釈) 全体の回答割合より10pt以上低いものを青、高いものを赤としている。

	回答者 (人)	回答者数と回答割合								
		あさはた緑地	南ア環境調査	南ア高山植物保護	アルゼンチンアリ	生きもの調査員	森林環境アドプト	脱炭素先行地域	海洋プラごみ講座	ひとつもなし
全体	76	37(49%)	35(46%)	31(41%)	27(36%)	23(30%)	13(17%)	29(38%)	29(38%)	17(22%)
19歳以下	5	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	1(20%)	1(20%)
20代	29	3(10%)	10(34%)	4(14%)	6(21%)	5(17%)	3(10%)	8(28%)	10(34%)	13(45%)
30代	10	6(60%)	10(100%)	8(80%)	8(80%)	5(50%)	2(20%)	9(90%)	4(40%)	0(0%)
40代	7	6(86%)	3(43%)	2(29%)	3(43%)	1(14%)	0(0%)	1(14%)	2(29%)	1(14%)
50代	11	9(82%)	7(64%)	9(82%)	6(55%)	6(55%)	5(45%)	5(45%)	5(45%)	0(0%)
60代	4	3(75%)	1(25%)	3(75%)	1(25%)	1(25%)	0(0%)	0(0%)	1(25%)	1(25%)
70歳以上	6	4(67%)	3(50%)	4(67%)	3(50%)	4(67%)	3(50%)	4(67%)	4(67%)	1(17%)
未記入	3	2(67%)	1(33%)	1(33%)	0(0%)	1(33%)	0(0%)	1(33%)	2(67%)	0(0%)

環境基本計画パブリックコメントの実施結果

問2 第3次計画全体について、共感できますか

【回答した人の割合】



問3 第3次計画に期待すること、推進すべき取組など、ご意見をお聞かせください。 (自由記載)

大項目	件数
計画全体	5
進捗指標	8
取組への期待	47
取組の提案	27
掲載文の修正等	7
その他	8
合計	102

【取組への期待】

- ・全体的な計画の推進や本市の存在感の向上に対する期待
- ・自然環境の保全に対する期待
(南アルプス、身近な自然環境、海など)
- ・気候変動への対応(防災力の強化など)に対する期待
- ・個別事業に対する期待 など

【取組の提案】

- ・温暖化対策に関する提案
(省エネや再エネ導入、次世代自動車推進など)
- ・廃棄物政策に関する提案
(食品ロス、ごみの減量や分別など)
- ・自然ふれあい、環境教育に関する提案
(ふれあい機会の充実、企業の取組の充実) など

問2、問3 結果に対する考え方

- 【結果】 ● 第3次計画への共感や期待は高く、本市の自然環境を魅力に感じている声や、それらを守り活用する取組を期待する声が確認できた。
- 食品ロスなど社会的課題を自分事と捉えている市民や、多様な協働を求める市民も一定数いることを確認することができた。

- 【考察】 ● 意見を寄せた人は概ね計画案に共感しており、これまでの取組や今後の方向性には共感が得られていると考えられる。

環境基本計画パブリックコメントの実施結果

【全体】 結果に対する考え方

- 【まとめ】 ● 回答者の約4割が20代であった。また、回答者の約4割が学生であった。
出前講座など積極的に働きかけを行うことで、これらの年代に関心を持ってもらえることが確認できた。
- 主な取組の認知度については、30代以上のあさはた緑地の認知度が高かったが、設問項目全体としては、十分に認知されていないことがわかった。特に、20代以下の認知度が低かった。
なお、内閣府の世論調査(無作為抽出)や、本市のR3年度市民意識調査(無作為抽出)でも、環境問題への関心は、20代以下は全体よりも低い傾向が出ている。(※次ページに参考資料添付)
今回、環境問題に関心を持って意見を寄せた方についても、同世代で本市の取組が話題になることが少ないため、他世代より認知度が低いと考えられる。
市の施策に対する認知度は低かったものの、パブリックコメント意見提出者の約4割が20代の市民からであり、同年代にも環境に対する関心を持つ者が一定層いるといえる。
- 20代以下に対して情報発信の強化及びニーズの把握を行うとともに、この年代を巻き込んだ協働・共創に取り組んでいくことで、全体の取組を大きく推進できると考えられる。

【今後の方向性】

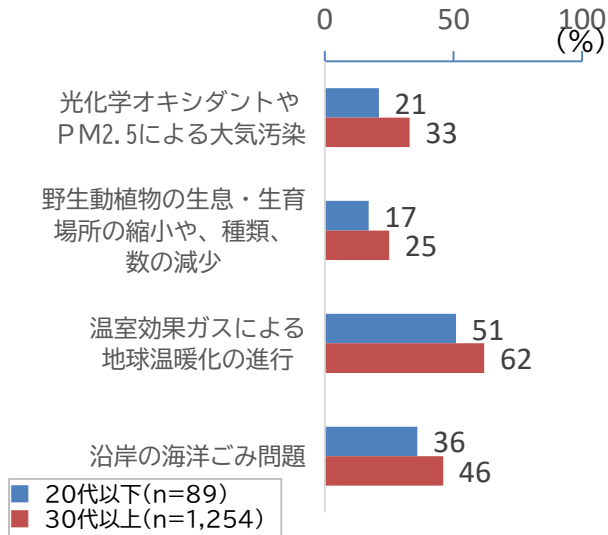
パートナーとなり得る市民等を意識し、より一層の情報発信等により、連携・協働の実現を目指したい



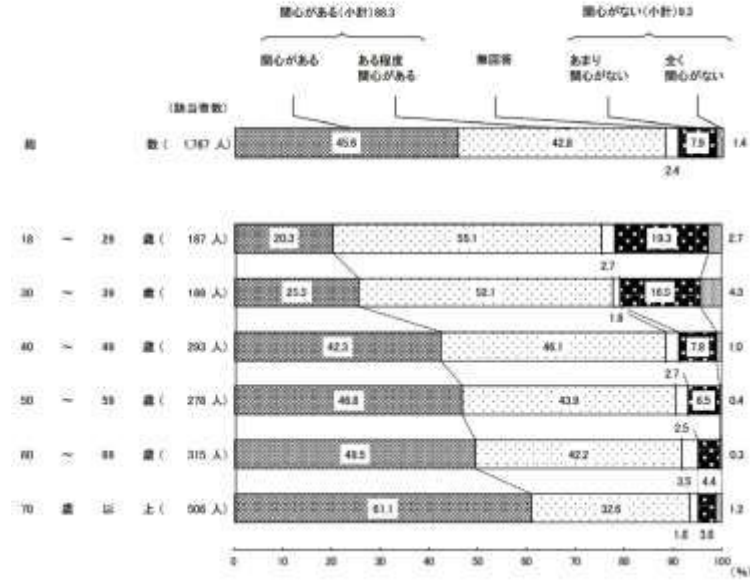
【主な本編該当箇所】

- P37 「今後の環境政策の展開に向けて」
- P38 「新たな課題を踏まえた視点」
- P42 取組方針5 「環境教育を通じて、環境活動の輪を広げます」
- P52 環境目標9 「幼児期からの環境教育の推進」
- P59 環境目標16 「各主体と連携した普及啓発の推進」

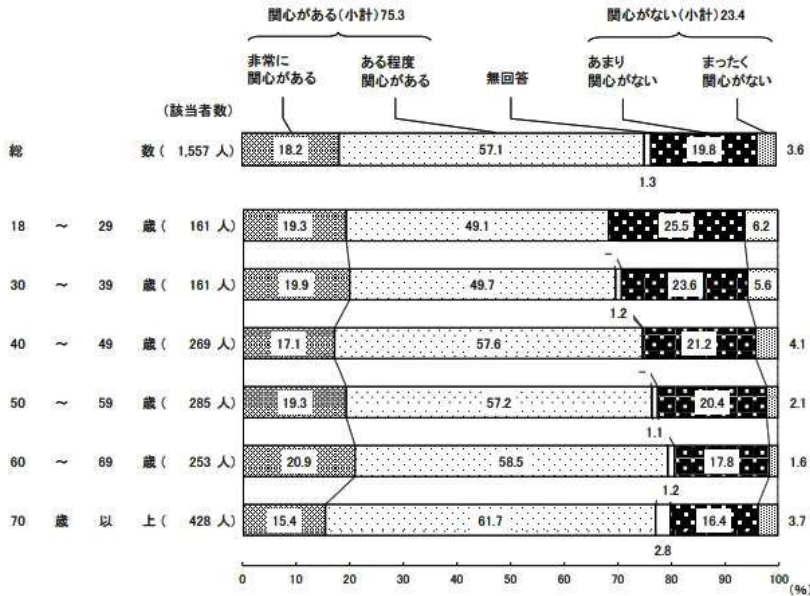
※ 参考1 静岡県市民意識調査(令和3年度)
「環境問題について、関心のあるもの」



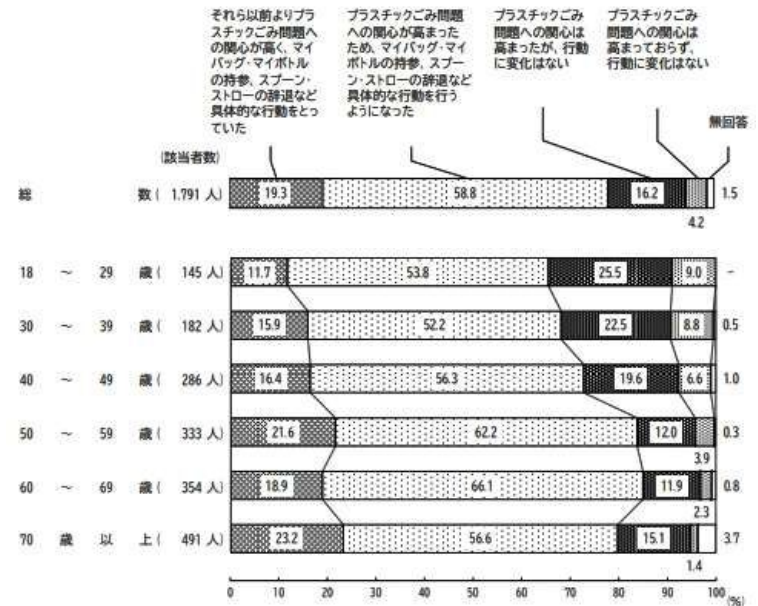
※ 参考2 内閣府世論調査 「地球環境問題に対する関心」(令和2年度)



※ 参考3 内閣府世論調査 「自然に対する関心度」(令和4年度)



※ 参考4 内閣府世論調査「プラスチックごみ問題に関する世論調査」(令和4年度)



環境基本計画パブリックコメントの実施結果

(4)寄せられた意見の内訳

大項目	件数	主な意見の要旨	計画に反映	盛込済又は今後の参考
計画全体	5	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市は「山・川・海」の揃った市であるという特徴を前面に出すべき ・計画に海洋環境の保護の視点を入れるべきだと思う。 ・循環型社会を実現するためには、市民一人ひとりの「行動変容」が必要だと思う。「行動変容」をキーワードとしてもっと盛り込むべきだと思う。 など 	5	0
進捗指標	8	<ul style="list-style-type: none"> ・指標と自分との距離が遠く感じるため、市民一人ひとりが目標にできる数値があるとよい。 ・取組方針2（廃棄物政策）の指標が、漠然としたものが1つしかなくて分かりにくい。 ・現実的な目標値である方が市民に取り組みやすさを感じさせると思う。 ・実際に環境改善に直接つながったかどうかを測れるような指標が少ないと感じる。 など 	5	3
取組への期待	47	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画の推進や本市の存在感の向上に対する期待 ・自然環境の保全に対する期待（南アルプス、身近な自然環境、海など） ・気候変動への対応（防災力の強化など）に対する期待 ・個別事業に対する期待 など 	4	43
取組の提案	27	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策に関する提案（省エネや再エネ導入、次世代自動車の推進など） ・廃棄物政策に関する提案（食品ロス、ごみの減量や分別など） ・自然ふれあい、環境教育に関する提案（ふれあい機会の充実、企業の取組の充実） など 	5	22
掲載文の修正等	7	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子の見やすさの改善に関する意見（イラストの追加、QRコードの追加など） ・掲載されている語句など修正等に関する意見（用語集の作成、説明の補足など） 	7	0
その他	8	<ul style="list-style-type: none"> ・取組への疑義や反対意見（次世代自動車は推進すべきか疑問、など） ・市政全体への意見（住みやすい環境について、環境保全以前の取組が不十分） など 	0	3
合計	102		26	71

(注釈)その他、環境基本計画に直接関係しない意見:5件

パブリックコメントや各種会議での意見を受けた主な変更点

【全体的な修正】

- 目指す姿、取組方針、環境目標などの、計画の根幹については、概ね賛同が得られた。
- 「山・川・海のつながりこそ本市の特徴である」と言った意見や、海に関する取組を期待する意見を受けて、**重点プロジェクトに「駿河湾の保全活用プロジェクト」を加えることとした。**

(環境基本計画のパブコメで寄せられた意見の紹介)

海を楽しみ、学ぶことができるフィールドの整備を期待します

身近に山、川、海などいろいろな自然があることが静岡市のよいところ。**いろいろな自然にふれあえることをもっとアピールした方がよいと思う。**

計画に**海洋環境の保護の視点を入れるべき。**

静岡の豊かな山や海を守る活動を推進すべきだと思った。特に海は最近になってからごみの数が増え、きたない海のイメージがついているので**きれいな海に戻してほしい。**

海洋プラスチックごみ対策はこれからの未来にとって必要です。海は二酸化炭素を吸収し、またたくさんの生き物がいます。**私たちにとって海は欠かせないものです。**

静岡市は「**山・川・海**」の揃った市であるという特徴を前面に出すべき

生物多様性への理解、浸透を図り、保全・再生について期待している。なぜなら、駿河湾には多様な生物が生息しているから。

パブリックコメントや各種会議での意見を受けた主な変更点

本編：P60、65
概要版：P7

- ・海を取組を加えた
- ・「森里川海」のつながりを強調した
(タイトルの追加、掲載順の変更)

【全体的な修正】(続き)

重点プロジェクトの修正案

修正前

(1)脱炭素先行地域整備促進プロジェクト

(2)ごみを減らそう！静岡版「もったいない運動」プロジェクト

(3)身近な緑地での環境教育推進プロジェクト

(4)市民参加型南アルプス保全活用プロジェクト

修正後

(1)脱炭素先行地域整備促進プロジェクト

(2)ごみを減らそう！静岡版「もったいない運動」プロジェクト

(3)森・里・川・海のつながりを守る！①
市民参加型南アルプス保全活用プロジェクト

(4)森・里・川・海のつながりを守る！②
身近な緑地での環境教育推進プロジェクト

(5)森・里・川・海のつながりを守る！③
駿河湾の保全活用プロジェクト

New !

①海の賑わい創出と連動した環境教育の展開

- (仮称) 海洋・地球総合ミュージアムとの連携
- 新興津地区人工海浜・緑地との連携

賑わい創出と環境教育・研究の両立

②しずまへの恵みを楽しみながら育む 駿河湾への愛着と誇り

- しずまえ振興計画との連携
・資源管理型漁業の推進、藻場環境の改善 など

しずまえ鮮魚のブランド力向上と温暖化対策の同時実現

パブリックコメントや各種会議での意見を受けた主な変更点

【個別の修正】(抜粋)

	パブコメや各種会議での意見	変更内容
①	<p>「行動変容」の視点が必要では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会を実現するためには、市民ひとり一人の行動変容が必要だと思う。(パブコメ) 	<p>新たな課題を踏まえた視点に行動変容を追加します。 本編：P34 概要版：P2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P34「現在取り組んでいる行動」への課題、P35「今後、静岡市が重点的に取り組むべき対策」、P37「今後の環境政策の展開に向けて」にて、市民それぞれの段階に沿った行動変容の働きかけが課題であると整理し、P38「新たな課題を踏まえた視点」に、行動変容に関する記載を加えます。
②	<p>進捗指標に中間目標が必要では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8年後の目標だけでなく、中間見直しのため、中間目標の設定も必要と考える。(庁内会議) 	<p>進捗指標に中間目標を掲げます。 本編：P40 概版：P3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗指標に中間目標を設定します。
③	<p>進捗指標を、もっと身近に感じるものに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標と自分との距離が遠く感じるため、市民一人ひとりが、目標にできる数値があるとよいと思う。(パブコメ) ・身近で簡単にできることからスタートし、それぞれが日常に根付かせていけばゴミは減ると考えます。市民、事業所等にゴミを前年比何%減らすというような具体的な数字を掲げ、それに向けて啓蒙活動(3R等ゴミを減らす対策についても)をしていくことが重要であると考えます。(パブコメ) 	<p>取組方針2(循環環境)の進捗指標を細分化します。 本編：P40 概版：P3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人1日当たりのごみ総排出量」の内訳である「一人1日当たりの家庭ごみ総排出量」と「事業系ごみ総排出量」を指標に掲げ、各家庭の取組に対する目標数値を掲げます。 ・進捗指標は、関連する個別計画との整合も踏まえ、変更しないこととします。今後、個別計画の見直しの際に、市民一人ひとりが目標にできる指標を検討していきます。
④	<p>(取組方針5：環境教育) 「次の担い手育成」「環境活動の拡大」に期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組方針5について、次世代を育て、今より活動を拡大させていくことをもっとアピールして欲しい。(パブコメ) ・「多様な主体の協働・共創」「経済・社会・環境の側面の統合」に関する取組で環境活動への関心が市民全体に広がることを期待している。(パブコメ) 	<p>取組方針5のタイトルを、活動の拡大がイメージできるものに変更します。 本編：P42 概要版：P4</p> <p>「環境教育を通じて、環境活動の輪を広げます」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施段階で、環境教育にもつながる「多様な主体の協働・共創」を組み込み、環境活動への関心が市民全体に広がっていくことが分かるよう、取組方針5の題名及び説明文を修正します。(修正前題名：環境教育を通じて、多様な主体の連携・協働をつくります)

パブリックコメントや各種会議での意見を受けた主な変更点

【個別の修正】(抜粋)

	パブコメ意見	変更内容
⑤	<p>(取組方針2：ごみ減量) 食品ロスに重点的に取り組んで欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物処理基本計画と整合をとるべき。(パブコメ) ・「食品ロス」への取組は重要だと考える。食品ロス問題への取組も重点プロジェクトに入れて欲しい。(パブコメ) ・一般廃棄物処理基本計画のパブコメにおいて、食品ロス問題に対する取組への意見が多数あった。 	<p>重点プロジェクト2「静岡版もったいない運動」に食品ロス対策を追加します。</p> <p>本編：P62 概要版：P5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトに「食品ロス」対策を加え、一般廃棄物処理基本計画の重要施策と揃えます。
⑥	<p>その他個別提案の盛り込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡市独自の「4R」をもっとアピールすべきと感じます。(パブコメ) ・コンビニ等での手前取りやペットボトルキャップ回収は根気強く進めてほしい。(パブコメ) ・一般廃棄物処理基本計画では、不燃物や粗大ごみを課題としているが、この計画にはそこに対する取組の記載がない。(パブコメ) ・地球温暖化対策実行計画のパブコメにおいて、清水港のカーボンニュートラルポート化の推進への意見があった。 <p>など</p>	<p>いただいた意見を踏まえ、記載を追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境目標5に4Rの推進を記載し、特にすぐごみになるものはもらわない、断るといった(Refuse：リフューズ)や、食べ残しをしない・ものを大切にするといった(Reduce：リデュース)の「発生抑制」に重点を置いて各種施策を展開します。本編：P48 ・環境目標5(廃棄物減量)の”エシカル消費”の例示に「コンビニ・スーパー等での手前取りなど」と記載します。本編：P48 ・一廃計画で課題に挙げている「不燃・粗大ごみ」への取組を追加します。本編：P48 ・重点プロジェクトの「グリーン水素の利活用促進」において、清水港のカーボンニュートラルポート化の推進について記載します。本編：P61 概要版：P5 <p>など</p>